

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972200089		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホーム 四つ葉のクローバー		
所在地	宇陀市菟田野区古市場481番地		
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成22年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

トータルケアを目指し、職員一同が心の通うケアを実践しています。家庭的な環境の中で認知症があってもその人らしく暮らして頂けるケアを行う事。常に御利用者や御家族の立場に立って考え対応する事。また、いろんな目標を設定し職員一同が綿密に申し送りをし業務を行い、日々穏やかに安心して暮らして頂けるように支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に密着して長い歴史をもつ医療機関を母体として、当ホームは開設されています。医療連携がとりやすく、またスタッフは近隣からの勤務者が多くかつ定着傾向があり、家族は安心して、入居者は適切な医療とケアに守られて、長期滞在者が多いのが特徴です。ホームは平屋で、集落に接しているため、孤立感がなく、行事やイベントを通じての地域交流に取り組まれています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた町で老いても障害があっても安心して暮らせる地域社会づくり」を目指し、日々の勤務の中で理念を確認し合い、理解し実践に取り組んでいます。	地域密着型サービスの意義をふまえ、地域との結びつきを重視したホーム独自の理念を作成し、定例の会議や日頃の話し合いの中で、理念を再確認する取り組みをされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(自治会の掃除、お祭り等)に参加している。又、施設のイベントにも参加して頂けるように呼びかけを行っている。日常的に挨拶をし、常にオープンな環境作りをしています。地域の方も、家で出来た野菜等を持って来て下さいます。	地域の行事への参加や、ホームのイベントへの地域住民の参加があり、また、電話相談や入居相談、地域からの野菜などの差し入れといった日常的な交流があります。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方によるボランティアの訪問時等に、認知症についての文書を配布したり、小学生の訪問時にも年齢に応じて、分かり易く説明させて頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を開催。入居者様の近状報告、年間の行事予定や研修予定を報告。市監査や評価を報告し意見を交える事で、サービスに生かしています。	運営推進会議は、各関係者の参加を得て、定期的に行われています。ホームからは、入居者の状況、行事や評価の取り組みなどを報告し、また参加者からは、ボランティアの紹介や催しの案内を受けるなど、意見を交え、サービス向上に活かされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の支援会議に出席したり、又、事故の報告等も常に行って現状を伝えています。介護認定の更新や変更、市への書類の提出時等にも現状の報告を欠かさず行い協力を依頼しています。	各種手続きや会議への出席等で、市担当者との情報交換の機会を持たれています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内、外部の研修に参加し、広く理解できる機会を設けています。具体的には、どのようなケアも拘束にならないか等、職員は常に意識を持って対応しケアに取り組んでいます。	身体拘束による弊害を、スタッフ全体でよく理解し、留意しながら、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	国道に面した門扉は、交通量が多いため、ロック式になっていますが、門扉の材質からくる圧迫感の緩和の工夫を検討されてはいかがでしょうか。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各研修に、幅広く参加し学んでいる。又、常に入居者様の身体状況を細かく申し送り、変化が無いかの注意を払い、内部での研修も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修に参加する機会を設けている。現在、成年後見制度を利用し入居されている方も、おられる為、必要な話し合いを定期的に行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書、及び口頭にて十分説明を行い対応している。不安な事項についても、安心して頂けるように配慮し理解と納得を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に説明を行っている。又、苦情等については、第三機関と契約している事を説明、又、契約書にも明示している。又、いろいろな意見をミーティング時等に話し合い、運営に反映させている。	家族の訪問の際に意見交換をされています。また、出された要望には、すぐに対応されています。	運営に関する意見があまり出されていないようですので、より多くの意見・要望を出してもらえよう、家族同士で話す機会づくりや積極的な働きかけを検討されてはいかがでしょうか。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時、又、日々の申し送り時に意見を提案できる機会を設け記録し、反映させている。	定期的な会議のほか、毎日のミーティングで、スタッフが意見を出しやすい環境づくりに努め、意見の反映に取り組まれています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を確認し常に意見を聞いている。5段階の給与水準を設け、年に1度人事考課を行い対応している。各自に向上心を持ってもらえるように多方面の研修に参加させたり定期的に面談を行い意見を聞く機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に研修を受ける機会を設けている。内部研修は予め計画を立て各事業所が月別に取り組みで学習を進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設の見学やグループホーム主催の研修会や勉強会に参加しネットワーク作りを積極的にさせ、意見交換の場を設けサービスの質の向上を図るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談、面接時アセスメントを行う。本人が落ち着いた状態である事を確認した上で、ゆっくりと思いに添ってお話して頂けるように対応している。又、認知症患者が進んでおられる場合には、家族様も通して安心して頂けるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居になるまでの間には何回かに分けて面談を行っている。その時、どういうケアが必要であるかを家族の気持ちに添って対応している。又、不安や心配無く施設での生活を営んで頂けるように、蜜に連絡を取り合えるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決まる前には、本人の状況を詳しくお聞きし本人と家族の立場に立って、どんなサービスが必要かを他職種や他サービス提供者とも連携を取り対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、あらゆる面で共感できるように働きかけている。又、個々の関わりを大切に、どんな形でも良いので役割を持って頂けるような取り組みも行い、一緒に生活をしているという環境作りをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の変化に対する事等、細やかに連絡させて頂き、共に変化の流れを共有、理解しながら支えていけるように家族にも協力をして頂き、支援を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じ馴染みの人への連絡を取ってもらい面会にも来て頂いている。又、手紙を定期的に書いてもらい、職員が投函をしている。馴染みの場所へは、家族の協力も要請し外出をお願いしている。	知人の訪問の受け入れや墓参りに行くなど、一人ひとりの生活習慣を尊重し、継続的な交流ができるよう支援されています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を配慮し、レクリエーションや運動を一緒にしてもらっている。リビングのテーブルの席の配置も配慮し自然に関れるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の状況の変化、家族の変化等も含め連絡を取り合っています。その時には、必要とされている内容の相談に応じ、より良いケアの方向性も話す機会を設けています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の好みや入浴時間等の希望を職員全員で把握し、楽しみを持って生活を送って頂けるように常に話し合い対応しています。又、意思表示の困難な場合は表情等から汲み取りケアを行っています。	入居者の目の動き表情から、意向を把握するよう努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様1人ひとりの生活歴はケアを行う上で、とても重要だと認識し、職員1人1人が関わりの中で大切にしている事でもあります。又、施設入所に到るまでの経緯も理解し情報を共有しケアに取り組んでいます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜の状態の変化や過ごし方を把握し介護計画を立てて、総合的に支援できるように努めている。又、有する力を見極め積極的に働きかけ、例えば、洗濯物、食器拭き等して頂いています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは本人の状況に応じ常に話し合える機会を作り、意向をお聞きし介護計画を作成している。又、職員とも全体のミーティングを毎月開催し意見を交換し、その都度、課題について話し合っている。	日頃のかかわりの中で、入居者の思いや意見を聞き、家族の希望などの情報交換をされています。また、スタッフが意見を出し合い、入居者の状態に即した介護計画作成をされています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録とは別に全体への申し送り記録、気付きノートを使ったり、細かく情報を記入し又、共有している。その事により、状態の日々の変化や長期間による変化を掴んだ上で介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本事業所ホーム内に、居宅介護支援所、訪問看護ステーション、デイサービスが隣接している為、いろんな職種との意見交換も行ないながら、多機に渡り、その時々状況に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員の方やボランティアの協力を得て、行事等に積極的に参加させて頂いているその為その場で地域の皆様の協力を得て安全に参加、楽しみを持って頂けるように支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、本人及び家族に納得を得て頂いている。月に2回の往診体制が整っている。又特変時に対しても適切な医療を受けて頂ける体制が整っている。	協力医療機関による定期的な健康管理の他、希望に応じて、入居前からのかかりつけ医等への通院支援をされています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院に担当看護師がおり定期的な往診時や特変事等も相談している。又、同事業所内の訪問看護ステーションからも特定疾患のある利用者に対し訪問を受け、常に連携し対応できるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員全体で毎日の面会を行い状態の確認を行っている。主治医とも話し合う機会を持ち協力のもと、早期退院にむけての相談を行っている。又退院後も往診などで常に状態の報告をし連携が取れる関係作りをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の変化の状況に注意し、家族等に説明、主治医、関係者にも相談をし話し合える時間を常に作り、方針を共有している。	協力病院との協議し、重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての基準を持ち、本人・家族のとの話し合いで、意向を確認されています。終末期の入居者も、医療関係者と連携を図りながら支援されています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティングや、カンファレンス時に話し合っている。意識の無い場合、熱発の場合等、全ての職員と訓練も行っている。又、定期的に心肺蘇生の訓練も行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は地域消防署から指導を受け、又、自発的にも防災管理者が主となり定期的に行っている。	火災訓練は、夜間想定も含めて、消防署の協力を得て定期的に行われています。	災害時のスタッフだけの誘導の限界を踏まえて、訓練については、隣接住民との協働も検討されてはいかがでしょうか。また、災害備蓄についても検討されるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法の研修を受け対応している。1人1人の家族構成や生活歴を考慮し、本人が、支援な振る舞いができるような言葉かけをしている。	個々の入居者に合わせ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや支援をされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で事前の言葉かけをしている。又、医師疎通の困難な入居者様には、ジェスチャー等で働きかけたり、本人の思いを理解できるような働きかけを行って気付いた点等、申し送り全職員が共有することができるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の今までの生活歴を大切に、入浴時間や食事内容(主食:パン、粥、軟飯等)にも気を配り、希望に添った援助ができるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容共、本人の意見を大切に望むお店に車椅子等で出掛けている。又、常に整容には気を配り対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間のメニューをお渡し楽しみを持って頂けるように話をしている。現在は身体的に食事準備を手伝って頂ける入居者様が、少なくなれたが、個々の能力に応じた部分を見つけ一緒にしている。	個々の入居者の能力に応じて、食事一連の作業に協働されています。入居者の希望メニューを聞いて、献立に採り入れる等、食事に楽しみが持てるような取り組みをされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量のチェックを行い把握している。又、個々の病歴や身体状況に応じ職員全員が把握し対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の状態に応じて対応している。自立、見守り、介助、ガーゼ等で対応。個々の口腔内の状態を必ず確認し、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の声かけ誘導を行いきるだけトイレの排泄を支援している。日々の改善を心がけ一人ひとりの排泄パターンを理解し対応している。	個々の入居者の状態を把握し、排泄支援計画を立てられています。生活の中での動きやサインに合わせ、プライバシーに配慮しながら排泄介助をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容については病院の管理栄養士と相談メニューを決めている。水分量の確認一人ひとりに対応した運動を取り入れたりしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状態の変化や、意思決定が出来ない利用者が増えてこられます。入浴の内容は常に話し合い楽しみを持って頂けるように又個々にそった支援をしている。	基本的な入浴日時の設定はありますが、個別の希望に合わせて、毎日であったり、夕方入浴も行う等、柔軟な支援をされています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じ対応している。起床の時間を考慮、昼食後の休息も勧め又夜間就寝時には、明かりや空調の調節も行い気持ちよく眠っていただく環境作りをしている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬を個々ファイルにして管理し理解出来る様になっている。また副作用についても担当の薬剤師から意見を聞いている。又服薬内容が変わった場合についても管理表を設け状態の変化の把握を定期的に行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりの状態に応じて役割を持ち持って頂けるような対応をしている。職員は個々の生活歴を理解し歌を唄ったり散歩に出掛けたりと気分転換の機会を見つけ楽しめる生活を送って頂けるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じて外出している。地域のお祭りや行事に参加し、場所取り等地域の皆様の協力を得ている。又家族とも交流して頂けるように文書等で発信し本人が出かけられる支援の協力も頂いている	地域の協力を得て、季節の行事等による外出の機会をもたれています。	日常的な外出の機会が少ないように思われますので、ホームの立地を活かし、近隣の散歩等をされてはいかがでしょうか。また、入居者の状態や希望に合わせた個別外出の機会づくりの取り組みも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的には、お金を所持し使えるような支援が出来てないが、年に数回の催しもの際は、職員が付き添いお金を持って希望するものを購入して頂いている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での連絡はして頂ける環境である。手紙の代筆を行ったり要望があれば内容を読ませて頂いたり積極的に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、居間には季節の花を飾り音楽を流している。空調の調整、温度計を確認して対応している。又両ユニット共季節のディスプレイをし居心地良く過ごして頂けるように支援している。	各ユニットの壁には季節の飾り(お雛様など)があり、また、キッチン、食卓、リビング等は、明るい光を採り入れ、居心地よい共用空間となっています。	今後は、更なる質の向上のため、入居者一人ひとりの感性や価値観を大切にしながら、趣のある和室や裏の空き地(畑)の積極的な活用を工夫されてはいかがでしょうか。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を考慮したり、移動してレクリエーションに参加して頂いている。又、共通の趣味を生かした活動も出来るように考慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の面談時には、環境の変化による不安が増す事が無いようにできるだけ入居前に使用されている物を持って来て頂き不安無く居心地が良い環境作りをしている。	キーボード、仏壇、使い慣れた家具が配置された居室、また、壁に、家族心づくしの写真、好きな歌手のポスターなどが貼られた居室等、居心地よく過ごせるよう環境作りを工夫されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の前に目印の物を付けたり、トイレ・洗面所前に大きく字書いている。電気スイッチにラベルをはり混乱しないように心掛けている。		